

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
1	P1	策定の趣旨	<p>【意見内容】 自然との共生に対する言及がない。ネイチャーポジティブにも触れられていない。</p> <p>【理由】 本計画案の全体を通して、自然との共生や、自然の恵みを受けてひとの暮らしが成り立っている点についての言及が貧弱すぎる。特に今後の10年で主流となるネイチャーポジティブには、脱炭素社会と同列で策定の趣旨の中でも触れてしかるべきである。</p>	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり見直します。</p> <p>1 策定の趣旨 (P1) (前文) 一方で、急速に進む人口減少や少子高齢化、SDGs<sup>*</sup>や脱炭素社会<sup>*</sup>、ネイチャーポジティブ<sup>*</sup>への世界的な関心の高まり、デジタル技術<sup>*</sup>の急速な社会実装の展開など、社会情勢はめまぐるしく変化が進み、これらへの対応が今後のまちづくりにおいても急務となっています。</p>
2	P1	策定の趣旨	<p>【意見内容】 1年前倒しにした理由を「策定の趣旨」の部分で明文化してもらいたい。 その理由を踏まえて、基本政策や基本事業の説明文を補強してもらいたい。</p> <p>【理由】 今回の総合計画は、予定より1年前倒しで計画期間がスタートします。当然そこには、そうしなければならぬ理由があるはずですが、それがはっきり文章にされていないと思います。これは、計画の冒頭、「策定の趣旨」に書いておくべきだと思います。ここには「前倒し」という言葉が1度だけ登場しますが、計画の策定を前倒す理由、または第二次計画を途中で切り上げなければならない理由にはなっていません。あと1年、第二次のままでいけないという明確な理由が見えないのです。しかも、できあがった新たな計画は、第二次総合計画の多くの部分を踏襲していますし、「まちの将来像」もほとんど変わっていません。なおさら、なぜ前倒しで第三次に移行する必要があるのだろうか？と疑問を感じます。 さらに言えば、人口減少や少子高齢化、SDGs、脱炭素社会、デジタル技術、新型コロナ・・・といった、前倒しの理由と推測できるキーワードが並んでいますが、これらのワードは基本政策や基本事業の説明の中ではほとんど見られません。社会情勢が大きく変化している中で総合計画も次のステージへ早急に移行しなければならない…というのなら、基本政策や基本事業はその社会情勢の変化に対応するための内容でなければならないはずなのですが、そうはなっていない。 ここはぜひ丁寧に説明して、多くの町民が、よし、それなら新しい総合計画をみんなで推進していこう、という気持ちになるようにしていただきたいと思います。</p>	<p>南三陸町第2次総合計画（平成28年度から令和7年度まで）については、南三陸町震災復興計画（平成23年度から令和元年度まで）の総仕上げとして、当該復興計画を継承・包含し、震災復興を最優先としつつ、その先を見据えたまちづくりの指針として策定したものです。 今回、総合計画の策定を前倒しする理由については、長年取り組んできました震災復興事業が令和4年度をもって完了したことに伴い、復興後の新しいステージでのまちづくりを推進していく必要があることに加え、素案に盛り込んでおりますとおり、現在の社会経済の動向や時代の変化にしっかりと対応していくためです。 いただいたご意見を踏まえ、冒頭の町長メッセージの中で、計画の前倒し理由等を明文化していきます。</p>
3	P4	本町の概況	<p>【意見内容】 1 自然環境や自然と共生する活動の記載がない。 2 災害からの復興の観点がない。</p> <p>【理由】 上記の記述がないのは、自然と共生する町を掲げてきた町として、まったくバランスがとれていない。FSC認証、ASC認証、ラムサール条約登録湿地、ブルーフラッグ認証、生ゴミを起点とする地域循環型農業など、東日本大震災後に官民が努力した結果生まれた多くの事柄にも言及があって良い。また、「いのちめぐるまち」や「防災・減災」の観点から盛んになった交流や観光の取り組みについても触れないのは片手落ちに感じる。</p>	<p>いただいたご意見については、震災復興の歩みとして、冒頭の町長メッセージの中に盛り込む予定としており、町の概要については、これまでの本町の歴史について掲載するものです。</p>
4	P14～P17		<p>【意見内容】 アンケート分析から導いたまちづくり課題の作り込みが薄い。</p> <p>【理由】 成長産業に観光・レジャー、次いで農林・水産があげられ、働きやすい環境確保としてU・I・Jターンがあげられている。本町において、この価値を生み出す源泉は、いのちめぐるまちへの取り組みから生まれる自然との共生策をおいて他はなく、このことが課題としてより大きく取りあげられるべきである。もはやTCFDやTNFDへの対応が企業の業績を左右する時代に入っており、カーボンニュートラルや地域の生物多様性に対する取り組みの遅れは町にとって死活問題となる。具体的には、生物多様性地域戦略やゼロカーボンシティなどへの言及も視野に、町として取り組む姿勢をより鮮明にだすべき。</p>	<p>まちづくりの課題については、町民・企業のアンケート結果、産業団体等へのヒアリング結果等に照らし、南三陸町総合計画審議会専門委員会において課題の洗い出し・整理をし、5つの区分として取りまとめたものです。 なお、自然との共生策を課題として取り上げるべきとのご意見については、まちづくりの課題「持続可能な地域づくりに向けて、新たな社会動向への対応」において一定の整理をしております。 また、ご意見にあります生物多様性地域戦略やゼロカーボンシティ等への取組については、実施計画（ローリング方式での策定）の一つとして、今後検討してまいります。</p>
5	P18	まちの将来像 「ひと 森里海 いのちめぐるまち 南三陸」	<p>【意見内容】 これまでの将来像「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」を変えるべきではない。</p> <p>【理由】 1 第2次総合計画で打ち出した将来像「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」は、自然と共生する町の姿勢をよく表しており、この将来像を旗印に、町の存続をも左右する多くの活動が生まれたが、まだこれを達成したというにはほど遠い状態と思量する。 2 「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」に共感した企業・学校・研究者が町を訪れ、地域と共同で様々なプロジェクトが動いている（MS&amp;ADグループのグリーンアースプロジェクト、早稲田実業学校初等部の南三陸フィールドワーク、南三陸いのちめぐるまち学会の設立、環境省S-21研究やJSTの共創の場づくりなど）。この将来像は、いまや町のブランディングの根幹であり、ここで納得できる理由もなく変更するということは、ブランド戦略上、大きな損失につながる。 3 「ひと」という言葉が先にくることについて、ひとの活動が重要であることを表したいという気持ちも理解できるが、森里海という自然があつてのひとの暮らしであることを忘れてはならない。ひとが先にきてしまうことで、過去の自然をないがしろにしてきた失敗を想起させてしまい、ネイチャーポジティブが当たり前になる次の10年に、時代錯誤で残念な印象を内外に与えかねない。</p>	<p>はじめに、まちの将来像については、南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会において、町内の各産業、福祉、子育て等の各分野に精通する委員の皆様が活発に議論し、時間をかけ慎重に審議した結果を踏まえ、作成したものです。 なお、素案において将来像の始まりを「ひと」にした理由については、単に今までの将来像の言葉を入れ替えるといった安易な考えによるものではなく、これからのまちづくりにおいて最も重要となるのは「人づくり」であり、「人」を大切に、育て、つながること、そして何よりも、町民一人ひとりがまちづくりの主役となり、ふるさとを愛し、今も・これからも自然と共に生きていくという思いを一番に伝えたいといったことによります。 また、決して、自然との共生や森里海そのものを軽視したり、人が偉い（一番）といった視点・考えで審議を重ねてきたわけではないことをご理解願います。 今回のパブリックコメントでは、この将来像に関して、「自然との共生」は将来にわたって不変のものであること、豊かな「森里海」の資源が国際的な認証取得につながり、このことが町民の誇りともなっていること、そして、現在の将来像が町民をはじめ多くの方々に広く浸透している等の理由から、「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」を継続すべきであるとのご意見を多数いただいたところです。</p>

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
			<p>4 語呂が悪い。これはブランディング上、とても重要なことである。町の将来像という、町内はもちろん、対外的にも重要な標語を決定する上で、この観点も十分に考慮して決定すべきである。</p> <p>5 最後に、これまで「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」に共感しその実現のために尽力してきた多くの町民や関係団体に対して、その達成度合いの評価もなく、単に次の総合計画の時期が来たからといって将来像を変えるというのでは、町行政そのものに対する不信を招くことになりかねない。これは、この町の持続可能性を著しく損ねることにもつながる問題であることを認識して頂きたい。</p>	<p>いただいたご意見等を参考に、改めて南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会に諮り、ゼロベースで審議等した結果を踏まえて、まちの将来像の説明本文を次のとおり見直し、素案に示した「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」を将来像とします。</p> <p>最後に、ご意見の中には「過去の自然をないがしろにしてきた失敗」といったご指摘もありますが、本町の歴史、これまで本町のまちづくりにおいて、自然をないがしろにしてきたことは一度もなく、先人が築き上げてきたものを大切に、そして東日本大震災をはじめとした災害の犠牲となられた方々に思いを馳せながら、その経験・教訓を活かしたまちづくりに取り組んでまいりました。このことは、十分ご理解いただきたいと考えております。</p> <p>まちの将来像（P19） 前計画となる第2次南三陸町総合計画では、人口減少や少子高齢化社会の中においても、町民それぞれが地域の一員としての責任感を持つとともに、この自然豊かで命がめぐる南三陸町の地で、生きがいを持ち暮らし続けることを目指して「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」を将来像に設定しました。</p> <p>この将来像に込められた「言葉」や「想い」は、この町で暮らし、働き、学ぶ全ての人々が共有する、変わることなくかけがえのない宝を表現したものです。</p> <p>本計画では、「人」と「自然」をまちづくりの軸に据え、自然豊かなこの町で、町民一人ひとりがまちづくりの主役として、これまで以上に人と人との繋がりを大切に、助け合いながら、心豊かに愛着を持って暮らし続けられることを目指して、人の繋がり・自然との共生を大切にすまちづくりを推進していきます。</p> <p>このことから、新しいまちの将来像については、第2次総合計画を踏襲しつつ、「人と自然」を大切に持続可能なまちづくりを目指すビジョンとして、次のとおり定めます。</p> <p>南三陸町第3次総合計画（2024年～2033年）将来像 「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」</p>
6	P18	まちの将来像 「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」	<p>【意見内容】 基本構想のメッセージ なぜ「森里海ひと」ではないのか？ひとを大切にするのは理解できるが何故前なのか？</p> <p>【理由】 1 自然の中で生かされている事がまず大事。 2 これまでのメッセージが多くの共感を呼んでいる。 3 語順が良くない。</p>	
7	P18	まちの将来像 「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」	<p>【意見内容】 第2次総合計画時の将来像である「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」そのままの継続で良いと思う。</p> <p>【理由】 1 将来像を10年スパンで変更していくには尚早だと感じている。もちろん、その将来像が達成されたかどうかをしっかりと検証され、納得のいく成果を感じられる様なら問題はないと思うが。 2 第2次総合計画の将来像がようやく浸透し始め、共通理念のもとに各分野での取り組みが進んできたと思っっている中で、また将来像が変わってしまうと、今後の目指すべきまちづくりやブランディングの方向性も変わってきてしまうのではないかと懸念する部分があるため 3 確かにひとが主役となったまちづくりは最もな意見ではあるが、そもそもがひとのなりわいもまちづくりも、自然環境（森、里、海）やその共生の形をしっかりと理解した上で行うべきもので、ひとありきのように感じる言い回しや文言の作りはかえって悪い印象を与えかねないと感じている。</p>	
8	P18	まちの将来像 「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」の文言について	<p>【意見内容】 第1次、第2次総合計画の将来像と比較して、「ひと」が自然、森里海の前に来ています。第2次計画のように森里海の後に「ひと」を配置したほうが、町民の生活感、地域の土地柄に合っていると思いました。</p> <p>【理由】 私たちは、震災による津波で自然の圧倒的な存在感を目の当たりにして、地球の恩恵の元で生かされていたと痛感しました。と同時に、福島第一原子力発電所の事故では人間の力の限界を感じ、奢った気持ちを大いに反省しました。</p> <p>最初の南三陸町総合計画でも第2次総合計画でも将来像には、「ひと」が自然の次に配置されていました。上記の学びとともに、震災前からすでに地球への畏怖の念や敬意が表現されていたと誇らしく感じていました。しかし、第3次総合計画案では「ひと」が自然の前に配置されており、自然や地球を尊重する気持ちが、前2つの計画のスローガンに比べて薄くなっているように感じます。順番によって読み手に与える印象は大きく異なります。もちろん人材も大切ですが、スローガンに「ひと」を入れること自体で、人材を重んじている気風は感じられると思います。南三陸では海や土に根ざして生活されている一次産業の従事者は多く、また、なりわいとして関わってなくても、森、海、山に囲まれた環境から、自然の恩恵のもとで生かされていると感じている人は多いと思います。ぜひこれまでどおり「ひと」は自然の後ろに配置して、南三陸で生きる人の感覚と地球への敬意を表現して欲しいと思います。</p>	

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
9	P18	まちの将来像 「ひと 森里海 いのちめぐ るまち南三陸」 について	【意見内容】 現在の将来像「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」は非常にバランスのとれた町民に親しまれている完成度の高いスローガンとなっているので、わざわざこれを崩す利点が見つからない。人が自然に生かされていることを考えれば「ひと」を最初に入れ替えるのは、どこか謙虚さに欠ける印象もあり、大変疑問に思う。 【理由】 「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」は我々町民の目線でみた、人と人との繋がりの中で、常に自然に生かされ、その自然を大切に、その価値を将来に生かす未来像を掲げたスローガンであるので、敢えて今ここで、「ひと」を最初に入れ替える必要性を感じないし、そもそも町民が慣れ親しんだ美しい文字バランスを崩してしまうことにも繋がりがかねない。	
10	P18	まちの将来像 ひと 森里海 いのちめぐ るまち南三陸	【意見内容】 自然に生かされている人の観点から言うと、従前と同様でいいと思います。 【理由】 町内にも周知され、来訪者にも馴染んでいることから、変更する必要がないと思いますし、語呂がいい方がいいと思います。もし、変更するならば大きく変えた方がまだいいと思います。	
11	P18	第2編基本構想 第1章 まちの 将来像とまちづ くりの理念	【意見内容】 ひと 森里海の順番を、森里海ひとに改めてほしい。もしくは、ひとと自然、ひとも自然もなど、まったく違う文言に変更してほしい。 【理由】 いのちめぐるまち、という将来像にはなんの反対意見もありません。しかし、その前の言葉の順番をなぜ入れ替えてしまったのか。これは解せません。 これまでもこの町では、大きな自然の手のひらに抱かれて人々の生活がありました。どの産業に携わっている方であっても、豊かな自然をすぐそばに感じて暮らしています。そしてそれはこれからも変わらないはずで、東日本大震災を経験した私たちは、その自然への畏敬の念は人一倍あるはずではないでしょうか。ひと、という言葉が、森里海の前になぜしゃしゃり出てきたのか。人が自然をコントロールできていると思っているような、山よりも海よりもまず人なんだと思っているような、町民性を誤解される恐れがあるのではないかと、ここに強烈な違和感を覚えます。もちろん、町の根幹は人です。ひとづくり、リーダーを育てていく事業はとても大切だと思っています。しかしその人も、自然の前では無力です。私たちはそれを12年前に嫌というほど味わわされたじゃありませんか。それをこのタイミングで、この部分だけを変えるという手法に反対です。 いのちめぐるまち、という将来像と、自然を含めての大きな生命の循環、生態系のつながりを考えた時、この、森里海ひとという順番は変えられないものだと思うのです。分水嶺に囲まれた町の中で、山の恵みをいただき、また降った雨は川となって里を流れ、海に豊かな栄養分を供給し、その海の恵みをまたいただいて、ひとが生きている。そしてそのひともいつか、大きな自然の中に還っていく。いのちめぐるまち。そのストーリーを、今回の文言の変更は損ないかねないと感じています。 後半を変えていないのに、前半だけを変えているので、なおさら人が一番、人間が一番偉い、というように変えたのだという印象を持ってしまいます。震災から12年も経ったし、もう自然や環境より人の生活が大事だという方向に舵を切り直したのだと思われてしまわないでしょうか。 または、まったく新しい言葉にしてほしいと思います。順番を変えただけなので、ことさらにそう感じてしまっているのだと思うのです。例えば、「ひとも自然もいのちめぐるまち南三陸」などはいかがでしょうか。是非、ご再考願います。	
12	P18	まちの将来像 「ひと 森里 海いのちめぐ るまち南三陸」	【意見内容】 これまでの「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」から「ひと 森里海いのちめぐるまち南三陸」になったことについて、「ひと」が最初に来ただけの将来像変更について、それであればこれまでのバージョンを踏襲するか、変えたいのであれば改善した方が良く考えます。 【理由】 大前提として、「人」を大事にしたいという方向性については特に異論はございません。ただし、現状の案である「ひと」を前に持ってきただけ”状態”の新しい将来像では、これまで「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」を唱えながらも大切にしてきた、あくまでも自然があつて、その理の中で生かされている私たち人間、という姿勢に矛盾が生じているように読めてしまうのではないかと、ということで、危惧しております。率直に申せば「自然に対する畏怖や畏敬の念を忘れて人間を一番上に出してきたような傲慢さが見て取れてしまうのではないかと」という危惧です。多分、そういうつもりではないということなのだろうとは思いますが、たかがスローガン、されどスローガンだと思いますので、できるだけ皆さんに齟齬無く愛着の持てる将来像を提示していただき、なおかつ私たちもそれを唱えてまちづくりに貢献したいと考える次第です。山があつて、その山に降り注いだ雨が森を通り、里を通り、海へと繋がっていく、だからこそ豊かな海が生まれ、その循環の中で私たちが生かされているということを大切にしている順番だったと思いますし、数々の町民の集まりでこのことばが唱えられている姿に私は何度も感動をしました。私は移住者であり、まだ30代前半です。このまちに来た時は20代でした。しかし、このことばによって、このまちの価値観や生き様を理解しやすく、自分も近付いていけたように思います。森里海に人が加わり共存する中で、各所で何をすべきか、という問いかけのようにも思いました。改めまして、人材育成が大切とか、町民が主役、という意図は理解できるため、経緯や意図を否定するつもりはございません。ただ、ことばを間違えると、今の私たちがわかっていても、私み	

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
			<p>たいに外から来る人や過去の災害を知らずに過ごす人、これからの世代は、理解やイメージの域が変わってしまうと思うのです。「ひと」があたまに来る自然との共生は、観光地のキャンプ場みたいな、人の都合から作られた自然しかことばからイメージできなく なってしまいそうで悲しいです。もしそれを教育するようになったら、側から見てもなんだか傲慢に見えて、恥ずかしいなあと思います。「人が主役となって自然と共生する」はその時点で間違った認識になってしまっていると思います。私たち人間は、自然に対する畏怖や畏敬の念を忘れてはならず、あくまでも自然のもとに生かされているはずなので・・・それを忘れていくまちは、自然の理を忘れて災害が増えたり衰退したりしているのが全国的にも 見て取れています。どんなに多様な人たちが集まっても、できるだけ同じ方向を向けるようにするべきだと思うので、せっかく定着した「森里海ひと」を無駄に変える必要はないのではないのでしょうか。あるいは、人を主役にしたのであれば、もっと大きくリニューアルしたことばにした方が良くはないのでしょうか。今回、このような議論の場が町内であったため、私も勇気を出して意見書を出してみようと思いました。ぜひ、ご検討いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。</p>	
13	P18	<p>まちの将来像 「ひと 森里海いのちめぐるまち 南三陸」</p>	<p><b>【意見内容】</b> 今のまちの将来像のなかで、踏襲したい部分こそ、次の十年の将来像にしてほしい。</p> <p><b>【理由】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第3次総合計画の策定会議が2年前倒して動き出すことによって、とても短い期間の中で、何度も時間をかけて、まちの将来像について、検討を重ねて頂きまして、ありがとうございます。</li> <li>現行のまちの将来像に、みなさんが共鳴されているという事がとてもうれしかったです。</li> <li>次のまちの将来像の素案を拝見し、改めて、これからは「人」の育成や、存在の在り方が肝になってゆく、という視点が多かったのだらうと読み取り、確かに人材育成は大切だと実感しました。</li> <li>一方で、そこに至るまで多く思慮されたことや議論の積み重ねがあったことが、正しく読み取れば良いのですが、文言の変化だけを見てしまうと、正しく理解されない可能性もあると感じました。人か自然か、という議論になってしまうことが懸念されます。誤解なく伝えるためには、「ひと（と） 森里海（の） いのち（が） めぐるまち南三陸」と言う接続語が必要なようです。</li> <li>人材育成という視点で現行のまちの将来像を検証しますと、肌感覚ですが、「いのちめぐるまち南三陸」という部分に惹かれ、まちを訪れたり、学びに来たり、移住されたりする方が増えていると感じます。積極的にまちづくりに関わりたいと思う人が増えているという事は、この部分が、まちに人を呼び込む大きな引力になっていることを表しているようです。実際、町の教育機関や多くの事業者も、この部分を強調して、現場での取り組みを作り始めているさなかです。</li> <li>この点を生かし、例えばですが、次の将来像は、明確に『いのちめぐるまち 南三陸』と打ち出し（打ち直し）て、人材育成を推進していきましょう！と発信してゆくというのは如何でしょう。</li> <li>森も里も海もひとと、その、どこが優位であると言えない、というのが、「めぐる」という仕組みです。それぞれの立ち位置で「めぐる」ように生かし合い、いのちやひとを育みあってゆくことを務めるまち。『いのちめぐるまち』というこの文言は、自然の仕組みを大切にしながらも、人材育成に大いに寄与する言葉であり、南三陸町だから謳える、まちの将来像だと思います。</li> <li>今回、新たなまちの将来像を検討した結果として、みなさんが踏襲したい部分が明確になった、それ自体を、次の指針に、人材育成に向けて町民全体で意識を高めてゆけますように、どうぞ上記の点を、今一度、ご思案下さいますよう、心よりお願ひを申し上げます。</li> <li>以下は町への希望ですが、まちの将来像の達成具合を、折々に検討してゆくことは必要です。みんなで決めて掲げたものを、何年か単位でも良いので、定期的に検証し合う場を設け、町民の声を聴いて頂ければ、その都度、まちの将来像の実現度や課題などに向き合ってゆけると思います。</li> </ol>	<p>まちの将来像については、南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会において、町内の各産業、福祉、子育て等の各分野に精通する委員の皆様が活発に議論し、時間をかけ慎重に審議した結果を踏まえ、作成したものであります。</p> <p>本素案に示した将来像については、これからのまちづくりに最も重要となるのは「人づくり」であり、町民一人ひとりがまちづくりの主役となり、ふるさとを愛し、自然と共に生きていくという思いが込められています。また、将来像を検討してきた過程においても、ご意見にもありますとおり、「森・里・海・ひと」に優劣をつけるということではなく、その言葉に共通するものが「いのちめぐる」であるという前提のもと、人づくり・人材育成に主眼を置いた議論等がなされたところです。</p> <p>いただいたご意見等を参考に、改めて南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会に諮り、ゼロベースで審議等した結果を踏まえて、まちの将来像の説明本文を次のとおり見直し、素案に示した「ひと 森里海いのちめぐるまち 南三陸」を将来像とします。</p> <p>まちの将来像（P19）</p> <p>前計画となる第2次南三陸町総合計画では、人口減少や少子高齢化社会の中においても、町民それぞれが地域の一員としての責任感を持つとともに、この自然豊かで命がめぐる南三陸町の地で、生きがいを持ち暮らし続けることを目指して「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸」を将来像に設定しました。</p> <p>この将来像に込められた「言葉」や「想い」は、この町で暮らし、働き、学ぶ全ての人々が共有する、変わることなくかけがえのない宝を表現したものです。</p> <p>本計画では、「人」と「自然」をまちづくりの軸に据え、自然豊かなこの町で、町民一人ひとりがまちづくりの主役として、これまで以上に人と人との繋がりを大切に、助け合いながら、人豊かに愛着を持って暮らし続けられることを目指して、人の繋がりと自然との共生を大切にすることを推進してまいります。</p> <p>このことから、新しいまちの将来像については、第2次総合計画を踏襲しつつ、「人と自然」を大切に持続可能なまちづくりを目指すビジョンとして、次のとおり定めます。</p> <p>南三陸町第3次総合計画（2024年～2033年）将来像 「ひと 森里海いのちめぐるまち 南三陸」</p>
14	P19	<p>まちづくりの理念</p>	<p><b>【意見内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの理念というにはあまりにも薄い内容である。</li> <li>もっと共感が生まれるようなものにすべき。</li> <li>特に自然との共生を第一に記載して頂きたい。</li> </ol> <p><b>【理由】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ひとのつながりを大切にすることを否定するものではないが、地域に生きるひとが誇りを持って外のひととも交流できる状態を念頭に内容を見直して頂きたい。</li> <li>そのためには、「いのちめぐるまちづくり」「自然と共生するまちづくり」を掲げることで生み出した成果をしっかりと評価し、なにがこの町の価値を生み出す源泉となっているのか、から議論して頂きたい。</li> <li>次世代への継承を念頭に正しい林業を進めるためのFSC認証取得、日本初のASC認証を取得し、1/3革命を成し遂げた戸倉のカキ養殖、住民が生ゴミ分別に協力することから始まる地域循環型農業(そのことによるCO2削減効果、地域経済循環効果、離農防止効果)、これらの取り組みが町外の人々に評価され住民の誇りを生み出している。この誇りは次世代の人材育成やU・Iターンにも大きな影響を及ぼしうる。</li> <li>自然の希少性というが、具体的には何を指すのか不明。地域の自然資本を使って生きてきた里海・里山の暮らしにフォーカスし、それを支えてくれているからこそ、自然との共生を意識することが重要、という論理出ないと納得感が薄い。そこをしっかりとやろうとしているからこそ、外からの注目と賞賛がうまれ、地域の誇りへとつながっていくという意識が重要ではないか？</li> <li>地域住民が活発な議論を重ねて作成した、「志津川湾保全・活用計画」の内容も参考に、見たものが共感できる内容にして頂きたい。</li> </ol>	<p>まちづくりの理念については、南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会において、町内の産業、福祉、子育て等の各分野に精通する委員の皆様が活発に議論し、時間をかけ審議した結果を踏まえ、「ひとのつながりを大切にすること」「自然の恵みを大切にすること」の2点としたものです。</p> <p>なお、ご意見にありますとおり、本町では、自然との共生を大切に、豊かな自然を活かしながら培われてきた地域の産業や生業が礎となり、震災後にはFSCやASC認証を取得する等、持続可能性への取組が多くの方から評価されております。</p> <p>一方で、変化の激しい社会環境の中で、未来に向けて持続可能なまちづくりを推進していくためには、貴重な自然やそこでの暮らしを大切にしながら、震災後に育まれた人々の知恵や力を結集して、その時々新しい社会課題に適切に対応していくことが求められることから、「人のつながり」をクローズアップしたところであります。</p> <p>「人」と「自然」は切り離せない関係にあり、ご意見にあります「自然との共生」という観点からも、まちづくりの理念の説明内容等について、次のとおり見直します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの理念（P19） ○自然の恵みを大切にすること 本町は、森里海の多様な自然に恵まれ、古くからその自然との関わり、自然と共</li> </ol>

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
				生する中で人々の暮らしが営まれてきました。近年、本町の森里海の豊かな自然が多様な視点から世界的にも認められ、郷土の魅力を高めるかけがえのない資源として認識されています。 この豊かで貴重な自然を未来に向けて大切に守り・活かし、その恵みを享受しながら、自然と人が共生する中で地域の魅力が増幅していくような、本町ならではの持続可能な暮らしと地域づくりを進めます。
15	P19	まちづくりの理念	【意見内容】 ○ひとのつながり…と、○自然の恵みを…の上下を入れ替える。 【理由】 意見1（No11）の観点から、入れ替えした方がいいと思います。	まちの将来像を「ひと 森 里 海 いのちめぐるまち 南三陸」としますので、原案のとおりとします。
16	P20	緑の白抜き文字のところ	【意見内容】 意見1（No11）の観点から、修正する。 【内容】 整合性があるように変更する。	まちの将来像を「ひと 森 里 海 いのちめぐるまち 南三陸」としますので、原案のとおりとします。
17	P25～	リーディングプロジェクト・施策の大綱・基本計画	【意見内容】 すべてにおいて、自然と共生するまちづくりを項目して配置すべき。 【理由】 1 地域の価値の根幹をなすものとしての「自然との共生」があまりにもないがしろにされている。 2 今後の農林水産業・商工観光業・人材育成の柱になるものとして統合した部署の設置も含め考えるべき。そのことが人口の流入や暮らし続けたい地域づくりにもつながるものと確信する。 3 南三陸町民として誇りある暮らしができるよう、特段の配慮をお願いしたい。	リーディングプロジェクトについては、官民・地域が連携して行う重点的かつ横断的な施策と位置付けるものであり、その具体は、実施計画の各事業を組み合わせで実施していくスキームとなります。ご意見にあります「自然との共生」については、本町の目指すべきまちの将来像の実現に向けて欠かすことのできない取組ですので、リーディングプロジェクトや施策の大綱、基本計画においても、自然との共生に係る基本的な考えや施策の方向性等を各項目に示しております。 なお、「統合した部署の設置」に関しては、必要に応じて、行政組織の枠組みといった観点で考えてまいります。
18	P25	LP1 未来を担う世代の暮らしの充実	【意見内容】 リーディングプロジェクトは、「重点的かつ横断的な施策」であり、「南三陸町総合戦略などの各種計画と連動性を確保し、実施計画の各事業を組み合わせながら実施」するプロジェクトと記載されています。その1つとして「子育て環境の充実」に関する取組が位置付けられています。 「子育て環境の充実」について、どのような事業を組み合わせ、何を実施するのか、早期に実施内容を調整いただき、実施内容の方向性が見えた段階、実施時期が決まった段階など、各段階で、情報提供や意見交換をさせていただく機会をいただければ幸いです。私たちが協力できることを一緒に考えていければと思っております。2023年2～3月に当団体と南三陸町により共同で実施した「南三陸町の子育て環境に関わるニーズ調査」の結果を見ても、ファーストステップとして実施すべき事業は見えている段階です。検討ではなく、実施への調整をよろしく願いいたします。 【理由】 子育て環境の充実について、第2次総合計画においても、安心して子育てができる環境を整備する等、若い世代の結婚・出産・子育ての希望がかなうまちを目指した取り組みをリーディングプロジェクトとして挙げており、町の重要な事業に子育て支援が位置付けられていると理解し、歓迎しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。	子育て環境の充実については、リーディングプロジェクトに掲げる「未来を担う世代の暮らしの充実」として、重点的かつ横断的な施策と位置付けております。 なお、子育て環境の充実を図るためには、町内の子育て世帯をはじめとした地域の皆様との意見交換やニーズ把握が必要であると考えておりますので、継続したタウンミーティング等に取り組んでまいります。 今後においては、南三陸町子ども・子育て支援事業計画の着実な実施に加え、令和5年度に策定が予定されている国の「こども大綱」や「南三陸町の子育て環境に関わるニーズ調査」の結果等に照らし、必要な事業を実施してまいります。
19	P25	LP3 行きたくなる・集うまちづくり	【意見内容】 行きたくなるような魅力だけでなく、もう少し活力につながるメッセージが欲しい感じですね。 【理由】 と言って、これだといった案がありませんが、ごめんなさい。例えば、「つながりから活力を産むまちづくり」なんかどうですか。	リーディングプロジェクトについては、南三陸町総合計画審議会及び南三陸町総合計画審議会専門委員会議での審議等を踏まえ、5つの項目として整理したものであり、各プロジェクトの項目は、町民や町外の方にも分かり易い内容で伝えることを第一に考え、設定していますので、原案のとおりとします。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
20	P32	観光業の振興基本事業	【意見内容】 新たな人材育成と町民意識の底上げ。 【理由】 観光事業を本来の職務として従事している人だけでは、これ以上の交流人口拡大の取り組みを担っていくには限界がある。他分野の事業者、あるいは町民各々が様々なアイデアや新たな視点で観光産業を促進（交流人口拡大）することにより、自分たちの生活が潤ったり、町の活性化に繋がることを意識付けしていくことが必要だと思う。	いただいたご意見については、観光業の振興に係る実施計画（ローリング方式での策定）の一つとして、今後検討してまいります。
21			【意見内容】 防災を学ぶまちづくり。 【理由】 総合計画の中に、震災を教訓とした学びを町内外に伝えていくための活動や仕組み作りを盛り込んだ内容がほとんど見当たらない。震災遺構、伝承施設、これまでの震災からの復興や人との繋がりなど、南三陸町は震災から新たな町の形として生まれ変わったのは、こうした震災からの復興や学びがあったからではないか？そうした過去の事例や教訓をもとに、未来に向けての伝承の仕組みや大切さを計画に盛り込んだ方が良く思う。	ご意見を踏まえ、以下のとおり見直します。 LP4 地域資源の有効活用（P26） 【基本的な考え方】 「自然と共に生きる」を次世代に繋げていくため、本町の豊かな自然と地域資源を守り・育て最大限に活かしながら付加価値や魅力を創出し、これらと共生するまちづくりをより一層推し進めていきます。また、本町の文化・歴史、震災の記憶と伝承を後世に繋いでいくため、情報発信や人材育成等の体制づくりなどに取り組みます。 【主な事業】 森林・海洋資源の保全と活用、ネイチャーボジテの継承、震災伝承・防災教育体制の充実 4 消防・防災の充実（P52）

南三陸町第3次総合計画（素案）について提出された意見等と町の考え方

No	頁番号	該当箇所	意見内容・理由	意見等に対する町の考え方
				(7) 震災の記憶・教訓の伝承への取組 震災による甚大な被害や困難を乗り越え復興に立ち向かった町民の姿など、その過程で得られた貴重な教訓が風化することのないよう、広く国内外の人々や後世に的確に伝える機会や場づくりを推進します。
22	P38	「3. スポーツの振興」基本事業について	<p><b>【意見内容】</b>                      (1) 生涯スポーツの推進、(2) スポーツ団体、指導者の育成について、担当課単独での実施は困難かと思われます。幼児～高齢者まで多世代の町民を対象にした事業は体育協会や推進委員のみならず、町内サークルや総合型地域スポーツクラブとの協働・支援が必要になるのではないのでしょうか。また、部活動の地域移行について動向を踏まえながらと記載がありますが、試験的にでも実施し効果検証を進めていけるのが人口が少ない当町のメリットではないのでしょうか。今まさにこの町で青春を過ごしている子どもたちが町に思い出を残せる機会として積極的に取り組むべき優先事項だと考えております。子どもたちと保護者の意見をもとに、南三陸町としての部活動地域移行のスタイルを形成していくべきだと考えます。指導者の育成も難しいのであれば町外から招集し、徐々に地域内で循環できるよう育成していく道もあるのではないのでしょうか。役場担当に任せ切るのではなく、こうしたスポーツ界隈の動きを知る専門事業者たちとの協働を求めます。</p> <p><b>【理由】</b>                      ここ数年の担当課、体育協会の動きに疑問を感じます。子どもたちのスポーツ環境は決して満足といえるものではありません。及び腰ではなく、積極的な動きを進めるためにも町内の知見を頼り、希望が持てる航海図を描けるような人員の招集が求められます。部活動の地域移行は全国的にもまだ指針が立っておらず、隣の芝生を眺めている間にも子どもたちは学校を卒業し町を巣立ってしまっています。現状から1ミリでも良い方向に進めるよう町内一丸となって取り組ませてください。また、ここまで具体性のない総合計画の内容は吟味して出されたのでしょうか。この意識にも危機感を感じます。</p>	<p>町民誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみながら健康・体力を保持・増進を図れるよう、生涯にわたりスポーツに親しむことができる豊かな「スポーツライフ」を送ることは、今後においても大きな意義があり、その環境整備・充実が町としても重要な責務の一つであると認識しているところです。</p> <p>ご意見にありますとおり、個々のニーズが多様化・複雑化する地域社会において、行政（担当課）単独でのスポーツ振興事業の展開は困難でありますことから、これまで以上に多様な主体との連携・協働は欠かすことのできない要素であると考えております。</p> <p>また、中学校部活動の地域移行については、ご承知のとおり、スポーツ活動だけではなく、文化芸術活動についても一体的に検討していかなければならないところであり、多様な主体との連携・協働をより一層強化し、ヒト・コト・モノ・カネとといった山積する課題を解決していきながら、南三陸町スタイルの仕組みを構築していきたいと考えております。加えて、担い手確保の視点から、令和5年度に設立されました南三陸町総合型地域スポーツクラブをはじめとした関係団体においてが、持続可能な体制が確立されるよう、必要に応じた支援等を行ってまいります。</p> <p>最後に、総合計画の役割・性格についてご説明いたしますが、総合計画は、本町の行政運営やまちづくりの基本的な指針として、政策・施策の基本的な考え・方向性等を示すものであり、個別具体の事業・取組等については、素案（基本構想及び基本計画）に反映しておりません。</p>
23	P44	(1) 子ども・子育て支援体制の充実	<p><b>【意見内容】</b>                      基本事業として、「子育て家庭のニーズの多様化に対応」「地域性を考慮した保育サービスの提供」「小学生の学童保育・居場所づくり」「仕事と子育ての両立支援」が示されております。具体的な事業内容があれば、何をいつまでに実施されるのかを明記してください。ない場合は、早期に実施内容を調整いただき、実施内容の方向性が見えた段階、実施期間が決まった段階など、各段階で、情報提供や意見交換をさせていただく機会をいただければ幸いです。私たちも協力できることを一緒に考えていければと思っております。2023年2月～3月に当団体と南三陸町により共同で実施した「南三陸町の子育て環境に関わるニーズ調査」の結果を見ても、ファーストステップとして実施すべき事業は見えている段階です。検討ではなく、実施への調整をよろしく願いいたします。</p> <p><b>【理由】</b>                      第2次総合計画時点から子ども・子育て支援体制の充実に関しては実施の検討がなされており、さらに検討が続けば、まちの未来をつなぐ若者や子育て世代の流失は加速する一方で、今後10年はもう検討段階ではなく、具体的な実行に移す段階にするべきと考えるからです。</p>	<p>本町では、「小学生の学童保育・居場所づくり」の一環として、令和6年度から放課後児童クラブの利用定員の拡充に向け、施設整備や関係規程の整理を進めております。</p> <p>子ども・子育て支援体制の充実に関しましては、それを担う人材が充足しておらず、有資格者等の人材の確保が課題となっておりますので、地域や民間との連携・協力も視野に入れ、その解決に取り組んでまいります。</p> <p>なお、ご意見を踏まえ、次のとおり見直します。</p> <p>(1) 子ども・子育て支援体制の充実 (P44)                      また、子育て家庭が安心して仕事と子育ての両立ができるよう、その実現に向けた仕組み、体制、環境づくりに取り組みます。</p>